



地震保険チェックリスト【いる？いない？】



ご自身の状況に該当する項目にチェック（✓）を入れてください。

基礎情報（事実確認）：検討の前提となる必須情報

この情報は、判断のベースとしてすべて把握しておくべき事項です。

- 築年：自宅の築年数（西暦）を控えている（特に昭和56年以前か確認）
- 耐震性：自宅の耐震等級（または免震・制震の有無）を把握している。
- ハザード：自宅の所在地周辺の液状化・地盤沈下などのリスクを、自治体のハザードマップで確認済み。
- 貯蓄：現在の貯蓄のうち、緊急用・再建用に回せる金額を把握している。
- 保険：火災保険（＝地震保険の前提）に加入しているか確認している。

補償の仕組み理解：誤解を防ぐための重要確認事項

地震保険が「何を、どこまで」補償するのかを正しく理解しましょう。

- 目的理解：地震保険は「建て直し費用全額」を補償するのではなく、**生活再建を助けるための保険**であると理解している。
- 補償額理解：補償は火災保険の範囲・**上限に影響**を受け、地震保険の支払い基準（全損・大半損・小半損など）を把握している。

地震保険の加入必要性チェックリスト（加点方式）

ご自宅のリスクや資金面で不安要素があるほど点数が高くなり、保険加入の必要性が増します。

- 建物が古い（特に昭和56年以前の旧耐震基準）または耐震補強をしていない。（3点）
- 家の耐震等級が基準（等級1）未満である、または耐震等級の確認ができない。（2点）
- 貯蓄だけでは、数百万円～数千万円に及ぶ再建費用をすぐに用意できない（3点）
- 住宅ローンが残っており、再建費用とローンの二重負担になるリスクがある。（3点）
- ハザードマップで液状化や地盤被害リスクが高いとされるエリアにある。（2点）

総合判定

合計点で、地震保険の加入の必要性を判断します。

0～3点⇒保険不要の可能性あり

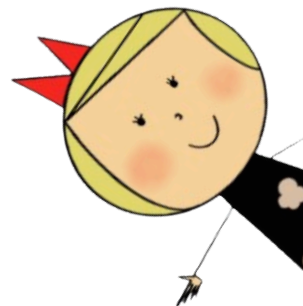
高耐震・低リスク立地・十分な貯蓄が揃っている場合、「見送る」選択肢もあり

4～7点⇒個別判断が必要

築年・立地・資金面の複数の要素が絡み合っているため、次のステップで詳細に検討が必要です。

8点以上⇒加入を強く検討

加入を強くおすすめします。建物・立地・資金面のいずれかで大きなリスクがあり、保険による備えが必須です。



推奨アクション

- 1 **再建費用の概算を取る**
建物の現状と建て替え費用の概算見積もりを工務店などに依頼する（再建には数百万円～数千万円かかるという指摘があります）
- 2 **生活防衛資金を計算する**
一時的な住居費、生活費（3～12ヶ月分）＋再建の頭金を合算し、必要な自己資金を明確にする。
- 3 **貯蓄で賄えるか比較**
貯蓄が十分なら「見送る」選択肢も合理的。足りない場合は地震保険で補うと考える。
- 4 **耐震性の確認と補強検討**
耐震等級・免震の有無を確認し、必要なら耐震補強を検討する（補強は将来的に保険料にも影響する可能性があります）
- 5 **火災保険とのセットで見積もり**
地震保険は火災保険加入が前提です。更新時などに見直し・複数社の比較見積もりを取りましょう。

ご自身の状況と照らし合わせて、地震保険の必要性を判断する一助となれば幸いです。